

理工学式「学生協働」をさがして ～S-Circleの2年目～

こうとう まいこ
向當麻衣子

(理工学メディアセンター)

理工学メディアセンターでは2010年度から、慶應義塾創立150年記念未来先導基金採択プログラムとして、学生スタッフで構成されるS-Circleが図書館の中でコミュニケーションの場を作る活動を行っている¹⁾。2年目となる今年度は、9名の新メンバーを含む総勢20名の学生スタッフで活動している。

広報活動を行う「広報班」、企画コンペで決定した企画を実行する複数の「企画班」を置くことは昨年度と同様であるが、今年度からさらに、「相談業務を考える班(通称STG班)」を置くこととなった。STG班のおかげで、昨年度は手薄であった相談業務についての問題提起や意見交換が活発に行われるようになった。期末試験前には、広報班が作成した「期末試験キャンペーン」のポスターを日吉キャンパスにも掲示させていただいたところ、1年生が大勢相談にやってきて、盛況であった。STG班と広報班の努力が相談回数に如実に反映され、昨年度の相談受付は年間で190回であったが、今年度は春学期だけで、173回もの相談を受け付けた(図1)。受付回数/稼働日数で求めた1日当たりの平均受付回数は、2010年度春学期は1.42回、2011年度春学期は2.11回であった。昨年度に比べ、S-Circleの活動が確実に認知されつつあると言えるだろう。相談内容は、昨年度は履修に関するものが最も多かったが、今年度は震災の影響で授業開始が遅れたこともあり、履修よりも勉強内容に関する相談が多かった。

一方、企画業務については、今年度もさまざまな企画を実施したが(表1)、昨年職員が大喜びで協力した「サイエンスカフェ」企画は、企画コンペの段階で案としては挙がっていたものの、賛同者が少なく今年度は実現しなかった。教員に講演をお願いするということが、お願いしたからには絶対に参加者を集めなければならないこと、などが大きな障壁となったようである。参加者を集めなくてもよく、自分たちのペースで進められる展示企画に流れる傾向にあるようだ。実際には、展示企画も掲示物の作成

や画像の著作権処理等に時間がかかるため、展示開始直前に慌ただしく作業をすることも多い。とはいえ、無事実施した展示企画はおおむね好評で、掲示板前で立ち止まって見入る利用者の姿を春学期中はよく目にした。

企画について、「今年もサイエンスカフェを是非やってほしい」とか、「展示企画が多すぎる」といった意見は、学生スタッフの自主性を重んじるという観点から、メディアセンターからはあえて出していない。しかし、実行の面では、「学生が本当にやりたい企画なのだから自主的にやるだろう。」と思って放置していると、直前までほとんど準備が進んでいないという状況もしばしば起こる。現状では、職員の介入が不可欠である。

毎時1名が交代で常駐する相談業務だけでは、学生スタッフ間の交流は生まれにくい。そこで企画業務を、となったわけだが、研究や他のアルバイト、就職活動に忙しい学生スタッフは100%の力をS-Circleの活動に注げるわけではなく、時給もそれほど高くはないので、企画の作業がどうしても後回しになりがちのようである。しかしながら、一緒に企画業務を行った学生スタッフ同士は自然と仲良くなり、それが相談業務にも活かされていることから、あくまでも企画と相談、両方あつてのS-Circleだと筆者は考えている。

近年、図書館の「学生協働」という言葉をよく耳にするようになった。S-Circleは、学生の自主的な活動として機能することが目標であったから²⁾、学生の力を借りて図書館活動を行う意味である「学生協働」とは少し趣旨が違う気がしていた。筆者の心の内では、理工学メディアセンターのスタンスとしては、「1年目：支える、2年目：見守る、3年目：手放す」のが望ましいと考えていたのである。

幸いなことに相談業務については、「見守る」ことができるようになりつつある。「こんなキャンペーンをしてみたら?」「困った相談者に)こう対応してみ

たら？」などのアイデアを職員から出すことはあっても、決定するのは学生スタッフであり、全員が自覚をもって相談業務にあたっているように思う。しかし企画業務については、「見守る」境地にはまだまだ到達できそうにない。自主的にやりなさいと言いつつ、要所要所で手や口を出すのは矛盾しているようにも思え、この塩梅もなかなか難しい。現時点では、自主活動と「学生協働」のあいこの、といったところだろうか。

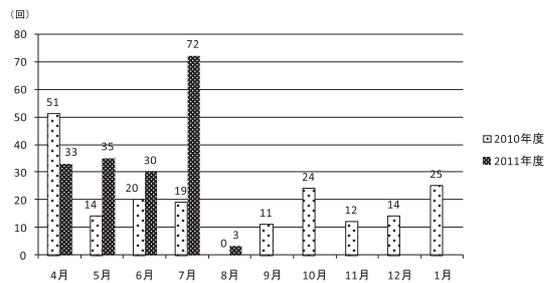


図1. S-Circleの相談受付回数

未来先導基金に応募できるのは最大3年間であり、3年目を仮に継続できたとしても、その後の展開は現在のところ白紙状態である。これまで積み上げてきた実績がどうなるのか、先行き不安ではあるが、今後も、理工学メディアセンターなりの「学生協働」の形を模索していきたい。今のところの修正目標は、「1年目：コミットする、2年目：しっかり見守る、3年目：温かく見守る」である。

注

- 1) 向當麻衣子. 理工学メディアセンター S-Circle 活動報告：塾生による塾生のための相談窓口. MediaNet. 2010. no. 17, p. 72-73.
- 2) “学生スタッフによる図書館における新しいコミュニケーションの場の創生”. 慶應義塾未来先導基金.
http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2011/01_detail.html. (参照 2011-08-03).

表1. 2011年度春学期のS-Circle企画

| 企画名 | 種別 | 日程 | 概要 |
|------------------|------|-----------|---|
| 矢上周辺マップに行ってみた | 展示 | 6/13- | 昨年度展示された「矢上周辺マップ」に寄せられた、矢上周辺のおすすめスポットを実際に歩き、マップを作成。計4枚を作成し順次展示する。 |
| ~してごめんなさい | 展示 | 6/17-8/2 | 投稿用紙と回収ボックスを設置の上、面と向かって謝れないが謝りたいちょっとしたことを募集し、掲示する。 |
| B3はこれを読んどけ! | 展示 | 7/1-7/15 | 学部3年生を対象に、学生スタッフがおすすめる図書の情報を学科別に掲示。掲示板前に人だかりが見られた。 |
| 矢上サッカーマッチ | イベント | 7/14 | 普段サッカーをしたくても人数が集まらずできない人(経験不問)を募集し、ハーフコートでサッカーを楽しむ会。29名が参加した。 |
| 創想ライブラリー選書+POP展示 | 展示 | 7/15- | 創想ライブラリーの一般書を50冊選定の上、すべての図書に対しPOPを書いて5回(テーマ別)に分けて展示する。 |
| 矢上でのスマートフォン活用講座 | 展示 | 7/19-7/29 | スマートフォンのおすすめアプリを投票などによって選定、アプリ名や概要を展示する。 |
| 10代の記憶 | 展示 | 秋学期 | 学科分けを控えた1年生に向けて、4年生以上の先輩がなぜその学科を選んだのか、学科を選んだの感想、後輩へのアドバイスなど、アンケート結果とインタビューの様態を展示する。 |



学生スタッフ作成のポスター